

よみがえる

古墳時代の伊予市



伊予市教育委員会は、古墳時代の伊予市をテーマにした『埋蔵文化財展示会』を、10月1日から29日まで市立図書館で開催しました。

伊予市には、県内で最も古い石器群（約2万5千年前）として確認されている双海町の東峰遺跡をはじめ、282か所の埋蔵文化財包蔵地があります。特に古墳時代は、弥生時代までの文化を基盤に、いち早く大陸文化を受容するなど、瀬戸内海航路の重要な地域として、政治・経済が盛んに営まれていました。

今回の展示会では、大陸文化の伝来を読みとれる古墳時代をテーマに、市内で出土した約100点の重要な埋蔵文化財が展示されました。遠い祖先が生活する中で、長い年月をかけて創り出し伝えられた文化遺産。この展示物の代表的なものをご紹介します。

古墳時代とは？

古墳と呼ばれる大きな盛り土をもった墳墓がつくられた時代をいいます。3世紀後半から7世紀中ごろまでの約400年間です。畿内に大和政権が誕生し、それに各地の豪族が組み込まれ、日本古代国家が形成されていきました。市内

でも、この地が盛んであったことを象徴する古墳が数多く発見されています。

この間、古墳の形、埋葬施設、副葬品は大きく変化し続けました。そのため、古墳時代を象徴する前方後円墳の変化をもとに、古墳時代を前期・中期・後期の3期に区分しています。

古墳時代の年表

奈良時代	飛鳥時代・古墳時代							弥生時代	時代			
710	701	694	672	645	607	604	587	478	300	西暦	ことがら	伊予市の遺跡群
都を奈良(平城京)に移す	大宝律令が制定される	藤原京がつくられる	壬申の乱	大化の改新	隋に使いが送られる	憲法十七条の制定	蘇我氏が物部氏をたおす	仏教文化が伝わった	倭王武が中国に使いを送る	大和王権を中心とする政治的なまとまりがつけられる	前方後円墳が盛んにつくられる	古墳時代前期 嶺昌寺古墳、吹上の森1号墳ほか
												古墳時代中期 猪の窪古墳群、太郎丸遺跡、市場南組窯跡、猿ヶ谷2号墳ほか
												古墳時代後期 猿ヶ谷古墳群、上三谷2号墳ほか

市内で出土された遺物

古墳時代 前期

3世紀後

半から4世紀の間を古墳時代前期と区分します。畿内で前方後円墳が出現しました。伊予市では前期の遺跡はほとんど明らかになっていませんが、この時期と思われる三角縁神獸鏡が2面出土しています。

さんかくぶちしんじゅうきょう
三角縁神獸鏡

(旧嶺昌寺付近出土、上三谷)



この鏡は、中国からもたらされた貴重なもの。この鏡を持っていた豪族の首長は、畿内と強い結びつきを持っていたと考えられる。県内では3面出土され、うち2面が市内で出土している。

(愛媛県歴史文化博物館所蔵)



ほうかくしじゅうもんきょう つつがたどうき
方格四獸文鏡・筒形銅器

(吹上の森1号墳出土、宮下)

昭和20年代の開墾の際、吹上の森1号墳から方格四獸文鏡・筒形銅器・紡錘車形石製品などが出土。出土品から古墳時代前期末から中期初頭の古墳と考えられる。この時期の古墳は愛媛県下では吹上の森1号墳だけで、非常に珍しいもの。

古墳時代 中期

5世紀を

古墳時代中期と区分します。前方後円墳が各地でつくられるようになります。また、朝鮮半島の技術を取り入れ、須恵器の生産が開始されました。伊予市では渡来人と思われるお墓、韓国の土器、須恵器生産の開始など、朝鮮半島の文化が強くみられます。



人骨 (猪の窪古墳出土、宮下)

猪の窪古墳の箱式石棺内から男性2体の人骨が検出。このうち1体は、身長約167cmと当時の瀬戸内では異例の長身・長頭。また、頭部が当時主流だった北ではなく、朝鮮半島南部を向くように埋葬されていた。以上から、渡来人の可能性もある。



まるぞこつぼ きだい
小型丸底壺・小型器台

(猿ヶ谷2号墳封土内出土、上三谷)

猿ヶ谷2号墳の封土内から小型丸底壺・小型器台をはじめとする韓国の土器(陶質土器)が約20点出土。これほどまとまって陶質土器が出土している例は全国でも少ない。小型丸底壺と小型器台が朝鮮半島でのセット関係を反映していることから、朝鮮半島と直接交流をしていた人物か、あるいは渡来人の墓が周辺に築かれていたと考えられる。

(愛媛県歴史文化博物館所蔵)



よみがえる
古墳時代の伊予市



須恵器(高杯、ハソウ、紡錘車、甑)
(太郎丸遺跡出土、下三谷)

太郎丸遺跡から高杯・ハソウ・紡錘車(糸をまきとる道具)・甑(蒸し器)など、多数の須恵器が出土した。これらの多くは、市場南組窯跡あるいはその周辺で焼かれたものと考えられている。



須恵器(高杯、ハソウ、壺、器台、土錘)
(市場南組窯跡出土、市場)

朝鮮半島から陶質土器がもたらされた直後、伊予市でもその制作技術を取り入れ、市場南組窯跡で須恵器生産がはじまった。窯で焼かれた須恵器には、高杯(供膳用)、ハソウ(食卓用)、壺(貯蔵用)、器台(器を置く台)、土錘(漁業用のおもり)などがある。

古墳時代
後期

6世紀か

ら7世紀中ごろまでを古墳時代後期と区分します。朝鮮半島の影響で、金メッキを施した馬具・武具・装身具が流行しました。伊予市では、後期の遺跡はそれほど明らかになっていませんが、金メッキを施した馬具や大刀が出土されたことで、渡来文化の影響が分かり、首長の系譜も想定できるようになりました。



f字鏡板付轡
(猿ヶ谷2号墳出土、上三谷)



横穴式石室内からf字鏡板付轡(馬を制御するために口にはめる道具)が出土した。鉄板を「f」の形に加工し、その上から金メッキを施し飾り馬につけたと考えられている。

(愛媛県歴史文化博物館所蔵)



鉄製品(直刀)
(猿ヶ谷2号墳出土、上三谷)

横穴式石室内から鉄刀が13点出土した。金銅装飾されているもの、つばをもつもの、細身のものなど形状は豊富。

(愛媛県歴史文化博物館所蔵)



須恵器(装飾付大型器台)
(上三谷2号墳出土、上三谷)

横穴式石室内から皿が付いた大型の器台が出土した。全長は約30cm。この装飾付大型器台は特殊なもので、古墳の副葬用に作られたと考えられている。

(愛媛県歴史文化博物館所蔵)